

## 試聴会・訪問記掲載

シマムセンオーディオ試聴会 (2017.3.18)

—Sonica DAC 試聴会—

### 1. はじめに

シマムセン CYMA で開催された Sonica DAC&UDP203 体験試聴会の前半の Sonica DAC 試聴会に行ってきました。この Sonica DAC は [Web 情報紹介【2017No.16】](#)でも紹介しましたとおり、極めて多機能ということに注目していたので期待して出かけました。

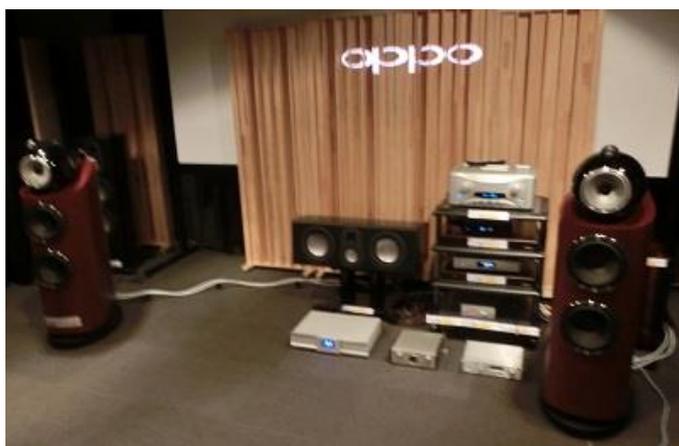
### 2. 使用機器

DA コンバーター : OPPO Sonica



スピーカー : B&W 802 D3

アンプ : ESOTERIC Grandioso F1



当日のセッティング

### 3. 試聴会の進行

試聴は評論家の麻倉怜士氏とメーカー担当者の解説を交えながら進行了ました。最初に Sonica の DAC チップの変遷と搭載されている ESS 9038Pro の仕様と特徴の紹介がありました。

音源は DELA のサーバーに収納されたものを USB 経由で DAC に送られて再生され、Sonica のネットワーク機能は使用されず、USB-DAC としての音質の確認ということになります。

出だしは同価格帯の DAC の Lux DA-150、Marantz HD-DAC1、TEAC NT-503 との音質比較試聴が、女性ボーカルで行われました。DA-150 はごく普通の DAC の音、HD-DAC1 もあまり変わらないが、少しソフトになった感じ、NT-503 は接続がうまくいかず、スキップとなりました。これに対し、Sonica はディテールの再現も、質感も向上し、低域もはっきりしてきます。

次に、サイモンとガーファンクルで、RCA のアンバランス接続からバランス接続に変更され、声の質感が一層ナチュラルになることがわかりました。

その後、ロック、ジャズ、女性ボーカル、男声ボーカルと続きましたが、通常自宅ではカバーしていない音楽ジャンルですので、クリアな音がしているかなという程度の印象しかありません。

ここでクラシックに移り、内田光子の伴奏でメゾソプラノのシューマンの歌曲、児玉桃のドビッシューと細川俊夫のピアノ曲がかかりましたが、メゾソプラノの声の質感の印象は良かったものの、ピアノはスタンウェイらしいスケール感が出てこず、何となく萎縮したような印象です。

さらに、新進女性バイオリニストの演奏では、DSD 録音という割にはバイオリンの艶がでておらず、伴奏のピアノもこれまでと同様でした。

引き続いて、これも新進ピアニストと北ドイツ放送管弦楽団のモーツァルトの歌劇の序曲のピアノ版編曲、ショパンコンクールの優勝者のチョンソンジンのショパンのピアノ協奏曲 1 番がかかりましたが、ピアノは相かわらずで、北ドイツ放送管弦楽団も生演奏の記憶からすれば、ドライな音に聴こえました。

再び、バイオリンに戻ってヒラリー・ハーンのバッハのバイオリン協奏曲 2 番がかかりましたが、音源自体の音質は自宅でも聴いていても良いものですが、生で聴くヒラリー・ハーンのヴィヨームの透明感のある音色にはほど遠いものでした。

この後、女性ボーカル 2 曲とザ・ピーナッツが続きましたが、BGM 的に聴くには良いという程度の印象でした。

結論としてクラシック以外では、違和感を感じず、楽しく聴けるような印象でしたが、クラシックでは選曲の問題もあって Sonica の DAC としての真価を知ることはできませんでした。ピアノやバイオリンの質感に関する不満は Sonica だけの問題ではないような気がしますので、別の組みあわせで聴いてみたいし、ネットワークプレーヤーとしての実力も知りたいと思います。

以上